

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510377

研究課題名(和文)日英の思春期女性の「不健康な性行動」の社会的要因に関する研究

研究課題名(英文)A Study of the social factors involved in young women engaging in sexual behaviour that may present a health risk: A comparison of Japan and the United Kingdom

研究代表者

ヤマモト ベバリーアン (Yamamoto, Beverley Anne)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：10432436

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：資料調査と英国の思春期保健の専門家へのインタビュー調査によって、オーストラリアと英国で思春期リスク行動の診断と対処のツールとして用いられているTraffic Light Tool (TLT)を発見し、その特徴の分析結果から、思春期の若者の性行動を含めた健康リスク行動全般に関する診断と理解および対処における有用性を確認した。TLT原版の開発者Family Planning Queensland (FPQ)から、日本版開発の許可が得られた段階にある。本研究期間の成果は、Environmental Health & Preventive Medicineに総説として公表した

研究成果の概要(英文)：This study focused on youth sexual behaviour and health. We compared approaches to adolescent sexuality and sexual health in the Japan and the United Kingdom. This revealed that the concepts of safeguarding and early intervention are important in the area of child and adolescent health in the UK. These conceptual frameworks allow professionals to deal with issues around child and adolescent sexuality positively and protectively. In contrast, we found that in Japan the approach to adolescent sexuality is largely one of emphasising risk with little attention paid to how to support healthy sexual behaviours. There is no conceptualisation of sexuality as healthy or positive. Our research led us to the Traffic Light Tool, which is being used to help support professionals working with children and young people on sexual health issues. We were able to confirm the efficacy of the tool. We entered into a licence agreement to develop a Japanese version of the Tool.

研究分野：医療社会学・教育社会学

 キーワード：セクシュアル・ヘルス、思春期保健、すこやか親子21、健康リスク行動、若年妊娠、チャイルドプロ  
 テクション、セクシュアリティ、ジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

日本では若者の性的行動はしばしば非行と逃避と結び付けて論じられてきた。1970年代から最近までの若者の性的経験率の上昇や早期化、特に女子の性行動の活発化が否定的に捉えられ、青少年時代は「性的に禁欲であるべきだ」という考え方が一般市民から行政、教育者までの「常識」である(日本性教育協会、2007)。

しかしながら、国立社会保障・人口研究所が「少子化の要因としての成人期移行の変化に関する人口学的な研究」(2008年～2010年)で明らかにしているように、特に1970年代以降、青少年時代は大きく変化してきている。皆が就職、結婚、家庭作りと出産という古典的な成人期を送ることは難しくなった。同時に、「勤勉と禁欲」と考えられた時期としての青少年期が「消費・自由奔放」へと変化してきている(国立社会保障・人口研究所2010)。

青少年時代は大きく変化してきたのに、自治体や教育機関など公的領域では、青少年時期が「勤勉と禁欲」であるべきだという考え方が強く存在している。現代の思春期の若者を取り巻く日本社会の環境においては、包括的な性教育や若者を対象としたセクシュアル・ヘルス・サービスを提供することが難しく、その結果として若年妊娠や性感染症など問題が深刻になっている。

「健やか親子21」では、少子化現象の背景のなか、若者の「不健康的な性的行動」に対して、十代の人工妊娠中絶実施率と十代の性感染症罹患率を減少させることが目標に設定されていた。2010年の中間評価では、両方がともに減少傾向にあることが確認され、その更なる低減が2014年までの主要な目標に設定された。しかし、肯定的に捉えられる若者の性は相変わらず存在しない。

「健やか親子21」の思春期の保健対策

の強化と健康教育の推進は、英国の十代妊娠戦略とほぼ同じ時期に開始されている。英国では1999年6月に「英国政府国会提出報告書『十代妊娠』が議会に提出され、10年間の目標値を設定した Teenage Pregnancy Strategy「十代妊娠戦略」が始まった。英国政府が立てた2本柱は、2010年までに18歳以下の妊娠率を半減させること、十代で妊娠・出産した若者への支援を充実させることで、6割が教育を受けるか又は就労することを目指すことであった。「十代妊娠戦略」は終了したが、地域レベルで「十代妊娠戦略」を実施するための Teenage Pregnancy Task Force が現在も各地域に残っており、若者の性問題について、特にインターネットに関わる性問題に大きくかかわっている。

英国では妊娠率と十代で親になることを課題としているのに対し、日本では人工中絶実施率と性感染症を課題に設定していること、また英国では十代で妊娠・出産した若者に対する教育と社会復帰支援の目標が設定されていることが、健康に関わる政策上の大きな相違点である。加えて、英国の対策は、妊娠のリスクが高い思春期の男女を対象とした有効な性教育プログラムや親子の関係を改善するプログラムなどを実施し評価することも可能なものである。その点からも日本の母子保健の枠でとらえる「健やか親子21」と社会的排除対策として進められる英国の「十代妊娠戦略」の比較は意義がある。

## 2. 研究の目的

本研究では、若者の健康にとってリスクとなる不健康な性的行動に焦点を当てた。日本の「健やか親子21」と英国の「十代妊娠戦略」の国レベルの政策を比較し、両国の政策に関する研究や活動を比較することによって、日英の若者の性(特に女性の)とセクシュアル・ヘルスへのアプローチを明

確にする。また、文献調査とインタビュー調査によって、日英において、健康にとってリスクとなる性的行動に至る思春期女性の社会状況、意識、価値観、行動を検討する。日本の思春期女性の「危険・不健康な性的行動」の特徴を、英国の十代妊娠への対策と比較・分析することを通して、その要因に迫る。思春期女性の性的問題行動を加速および抑制する因子を抽出し、有効な予防的介入の検討に役立つ知見を得ることを目指す。

### 3. 研究の方法

本研究では、日英の若者の性(特に女性の)とセクシュアル・ヘルスへのアプローチを明確にすることと日本の思春期女性の危険・不健康な性的行動の性状と特徴を知る目的で、先行研究・資料調査と、当事者および周辺へのインタビュー調査データを質的研究手法で用いて国際比較を行った。

具体的には、次の研究活動を行った。

・日本の「健やか親子21」と英国の「十代妊娠戦略」について、資料調査とキーパーソンへのインタビュー調査によって詳細な情報を収集し、目標達成に向け展開されている実践について比較分析を行った。

・日本と英国において、十代人工妊娠中絶や性感染症を経験した思春期女性(以下、ハイリスクグループ)に関する質的研究を行った。英国でハイリスクグループの思春期女性へのインタビュー調査を行い、生活環境、セクシュアリティの意味づけ、リスク行動など質的データを収集した。加えて、日英のそれぞれで中・高等学校の教師と医療関係者へのインタビュー調査を行い、ハイリスクグループの背景の特徴を抽出し、日英のハイリスクグループの同質性と異質性を分析することで、日本の特徴を検討した。

### 4. 研究成果

I. 日英の若者の性(特に女性の)とセクシュアル・ヘルスへのアプローチを明確にする。

日本では、「すこやか親子21」の第2次中間報告(厚生労働省、2007)にもあるように、思春期保健の面から妊娠中絶や性感染症など健康へのリスクに注意が払われたが、セクシュアリティを健康に良い視点から捉えた課題設定がなされてこなかった。

逆に英国では、1990年代の十代妊娠戦略によって、思春期の性に関する研究と実践の蓄積があり、性やセクシュアリティをめぐるコミュニケーションが進んでいる。同時に Sex and Relationship Education という包括的な性教育の実施が学校側の義務になり、各学校が性教育に関するポリシーを広報する義務もある。生物学的、健康的、社会的、心理学的(emotional)の各側面から性と人間関係を授業で捉えるべきとされている。教育にかける時間においても、性教育において、英国は日本よりも充実しており、内容的にも、若者の健康への正と負の双方から性を捉えている。

加えて、英国では近年、児童期や思春期の健康と安全を守る政策では、safeguarding (Royal College of Paediatrics and Child Health, 2014) と early intervention (Allen, 2011)が最も重視されている概念である。これらの概念枠組みは、子どもと若者の性の健康を positively あるいは protectively に捉える貴重な概念枠組みである。

II 日英において健康的にとってリスクなる性的行動に至る思春期女性の社会状況、意識、価値観、行動を検討する。

現代の英国における思春期保健の現状を

把握する目的で、英国の若者のリプロダクティブ・ヘルス専門NGOである Brook、十代妊婦および母親の支援学校(M School、B市)とプライマリヘルスケア施設(V Health Center, N市)などをそれぞれ2回以上訪問した。調査協力が得られ、複数の関係者及び利用者から、聴き取り調査を行った。

Brooksにおいて、現場経験が豊かな実践家から、英国におけるsexual risk takingに関するコミュニケーション・ツールであるTraffic Light Tool(TTL)の情報を収集した。開発にかかわった中心メンバーの協力が得られて詳細な資料を入手した。

TTLは最初にオーストラリアのFamily Planning Queensland(FPQ)によって開発され、さらにBrookが英国でTTLの英語版を開発した。思春期リスク行動の診断と対処のツールとして用いられている。そこで、TLTについて、オーストラリアと英国で詳しくインタビュー調査と資料調査によって検討し、その特徴の分析結果から、思春期の若者の性行動を含めた健康リスク行動全般に関する診断と理解および対処における有用性を確認した。

若者間、若者と専門家、若者と親、親と専門家など、さまざまな間柄で抽出されたTLTの教育的機能は、性的リスク行動を扱うコミュニケーションが具体的で客観的に可能となる、行動について認識の一致と相違が3色で視覚化されることで相互の理解が進む、同じ個人で専門家としての判断と親としての判断にずれが生じた場合にも視覚化が役立つ、行動を分類してリスクの判断が年齢で変わるものと変わらないものを視覚化できるので予防の教育が行いやすい、などであった。

児童・思春期保健の分野からできてきた概念safeguardingについても文献調査した。

これら研究成果は、日本思春期学会で報告した後、Environmental Health and Preventive Medicineに総説Designing a Safeguarding Tool for Japanese Professionals to Identify, Understand and Respond to Adolescent Sexual Behavioursとして公表した。

なお、Brookから研究協力が得られ、2013年の9月から2014年の12月の期間に4回にわたってTLTを中心したフォクス・インタビュー調査をイギリスで行った。対象者は、十代妊婦および母親の支援学校(M School、B市とB School、N市)の生徒または専門職員、プライマリヘルスケア施設(V. Health Center, N市)のセクシュアル・ヘルス・クリニックの専門看護師、N市のPSHE相談員とTeenage Pregnancy Task Forceの代表者、Kカレッジ、K市の一般高校生など)であった。その調査の一部のデータの分析と結果は、第33回日本思春期学会と13th Asia Oceania Federation of Sexology, Brisbane, Australiaで発表した。2015年7月に第22回Congress of the World Association of Sexual Healthで成果の一部を公表予定である。

また、2014年度は、TLT日本版開発のための交渉に臨み、TLT原版の開発者FPQとの間で綿密な意見交換を重ねた。2015年3月には、ライセンス契約書をFPQの担当者と大阪大学と結び運びとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

1. Yamamoto BA and Kitano N. Designing a Safeguarding Tool for Japanese Professionals to Identify, Understand and Respond to Adolescent Sexual Behaviours. Environ Health and Prev. Med.

(EHPM )20(2):141-145, 2015 [Epub 2015 Jan 3.] (accepted December 11, 2014)

2. 馬場幸子, 北野尚美, 李 錦純: 児童相談所における多言語対応の現状と通訳利用時の課題 児童相談所職員への聞き取り調査の質的分析 . 子どもの虐待とネグレクト, 15:173-181, 2013

[学会発表](計 19 件)

a) 国際学会

1. Yamamoto, B. How is sexual risk constructed? A comparative study of young mothers, their teachers and sexual health nurses in the UK. 13<sup>th</sup> Asia Oceania Federation of Sexology, Brisbane, Australia. 22025 October, 2014.
2. Yamamoto B. Constructing youth, constructing youth sexuality: An analysis of two national policies framing adolescent sexual behaviour in Japan and UK, European Association of Japanese Studies Conference. Kyoto University, September 29, 2013.
3. Yamamoto, B. Social exclusion vs. a MCH framework for addressing adolescent pregnancy: a comparison of UK and Japanese national strategies. 12<sup>th</sup> Asia-Oceania Congress of Sexology Matsue, Japan 2-5<sup>th</sup> August, 2012

b) 全国学会

1. Kitano N, Takeshita T, Nishio N, Otani K, Ienaga N, Murakami K, Nakai H, Nakashima S, Nishimoto K, Morimoto Y, Furuta K, Terada T, Shioji N, Ikeda A. On behalf of the

School Health Board of Hidaka Medical Association. Cigarette smoking behavior among adolescents aged 19-20 years in a Japanese community: The Hidaka anti-smoking study, 2012-2014. 25th annual congress of Japanese Association of Epidemiology, 2015.1, Nagoya

2. 北野尚美, 野尻孝子, 金森敏代, 坂部美紀, 南 ふみ, 西尾信宏, 竹下達也: 和歌山県母子健康カードの変遷 -母子保健情報の一元的管理と親子支援の一考察. 第 73 回日本公衆衛生学会, 2014.11, 宇都宮
3. 山本ベバリーアン, 北野尚美: 若者の性行動に対する専門家が用いる診断と対処の日本版ツールの開発について - 英国の Traffic Light Tool の応用. 第 33 回日本思春期学会, 2014.8, 筑波
4. 北野尚美, 野村恭子, 村上慶子, 大久保孝義, 竹下達也, 杉本充弘, 木戸道子: 高年出産と母乳育児確立の関連 - Baby Friendly Hospital の成績から. 第 84 回日本衛生学会学術総会, 2014.5, 岡山
5. 辰田仁美, 北野尚美, 星野寛美, 野原理子, 加茂登志子, 玉置哲也, 南條輝志男: 女性の職場性ストレスとその対処行動としての飲酒と健康状態. 第 87 回日本産業衛生学会, 2014.5, 岡山
6. 北野尚美, 野村恭子, 村上慶子, 大久保孝義, 竹下達也, 木戸道子, 杉本充弘: 妊娠前 BMI および妊娠中体重増加と母乳育児開始・継続の関連の検討: 質評価を用いた先行研究レビュー. 第 24 回日本疫学会学術総会, 2014.1, 仙台
7. 北野尚美, 亀井竜平, 大谷和正, 家永信彦, 中井寛明, 高辻幹雄, 寺田泰治, 中島彰一, 古田浩太郎, 村上浩一, 塩

- 路信人，池田明彦，坂田清美，野尻孝子，竹下達也：小学生から高校生にかけての追跡集団における生活習慣の変化と健康指標との関連 .第 72 回日本公衆衛生学会，2013.10,津
8. 野田 都，北野尚美，野中研人，西尾信宏，寺田泰治，家永信宏，大谷和正，池田明彦，塩路信人，野尻孝子，竹下達也：若者の喫煙状況と成育家庭の喫煙者の存在の関連 -新成人に対する横断調査成績から .第 32 回日本思春期学会，2013.8,和歌山
9. 山本ベバリーアン，北野尚美：思春期リスク行動の診断と対処の日本版ツールの提案 -英国の Traffic Light Tool の応用 .第 32 回日本思春期学会，2013.8,和歌山
10. 辰田仁美，北野尚美，星野寛美，野原理子：主観的な健康状態に及ぼす生活習慣と職業ストレス対処行動の影響 .第 86 回日本産業衛生学会，2013.5,松山
11. 北野尚美，中村安秀，李 錦純，馬場幸子，柳川敏彦，竹下達也：在日外国人を親にもつ子どもに発生した家庭内被虐待に関する全国横断調査の記述疫学 .第 115 回日本小児科学会学術集会，2012.4. 福岡市
12. 北野尚美，竹下達也，寺田泰治，家永信彦，大谷和正，中井寛明，塩路信人，野尻孝子，坂田清美，橋本 勉：和歌山県日高地方における児童・生徒の体格に関わる縦断調査データの記述疫学的分析 .第 115 回日本小児科学会学術集会，2012.4. 福岡市
13. 北野尚美，中村安秀，山本ベバリーアン，竹下達也：子ども期の spanking と neglectful parenting の経験が青年の well-being に及ぼす影響と関連する要因の検討 .第 12 回癒しの環境研究会，

2012.10. 和歌山

14. 大谷和正，家永信彦，川口精司，高辻幹雄，寺田泰治，中井寛明，中島彰一，西本利吉，古田浩太郎，村上浩一，森本善文，出口信幸，塩路信人，池田明彦，野尻孝子，北野尚美，西尾信宏，竹下達也：学校医による新成人への喫煙防止アプローチとアンケート調査結果の報告 .第 43 回全国学校保健・学校医大会，2012.11. 熊本市

c) シンポジウム，学術講演等

1. 北野尚美：男女共同参画と人材発掘・育成を考える - 子育てとおとなの役割をヒントに . 自由集会 1 日本衛生学会における男女共同参画推進への取り組み . 第 85 回日本衛生学会学術集会，2015.3, 和歌山
2. 北野尚美：地域における体出生体重児の支援について . 和歌山県母子保健研修会，2013.3,和歌山

〔図書〕(計 1 + 1 件)

1. Yamamoto, B.A. 「セクシュアリティと日本社会」 (*Sexuality and Japanese society*). In 牟田 和恵 編著 (Muta, Kazue ed.) 『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』 改訂版 (Gender studies: women's studies, men's studies) Revised edition. Osaka: Osaka University Press. 03.2015.
2. Dales, L. and Yamamoto, B.A. Romantic and sexual intimacy before and beyond marriage, in Allison, A. and Cook, E. Eds, *Intimate Japan*, University of Hawaii Press (予定).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

(山本 ベバリーアン )

研究者番号：10432436

(2)研究分担者

( 北野 尚美 )

研究者番号：40316097